



杉並景観録

SUGINAMI Keikan-Roku

第十九号



●発行日 平成 26 年 3 月 25 日
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代)

橋 — 日常を支える —

「橋」というとどんな橋を思い浮かべますか？レインボーブリッジ、日本橋、東京ゲートブリッジなどでしょうか。巨大な橋はとても印象的で、渡るときは「おつ、橋を渡るな」なんて意識してしまいませんか。

では、私たちの住む杉並区にある「橋」というと、どんな橋を思い浮かべますか？実は、区内を走る河川と水路、鉄道、道路をまたぐ橋の数は、全部で140を超えます。ところが、区内の橋の多くは全長15m未満、幅6m未満の小さな規模で、普段利用している道に橋が含まれていることを意識する方はあまりいないのではないのでしょうか。

たとえば、河川にかかる身近な橋を思い浮かべてみてください。対岸の景色を自然につなぎ、その周りに多くあるみどりのうつろいや水の流れを眺める特等席になる、それが杉並の橋です。そして、立派な橋や個性的な橋はありませんが、実は橋ひとつひとつに目を向けてみると、欄干の形や足元のタイルの模様など、さまざまな表情を見ることが出来ます。

私たちの生活に寄り添い、日常を支える橋。いつもの通り道にある橋にちよつと目を向けてみてはいかがでしょうか。新しい景色が見えてきませんか。



すぎなみ／ひと／まちなみ SPECIAL EDITION

「今」だから考えたい杉並の景観 平成25年11月2日～11月17日

「景観週間 2013」を開催しました

11月2日 大田黒公園 大田黒公園周辺地区 景観まちづくりイベント



ピアノの前でお話しをする石井さん

大田黒公園内の記念館では、大田黒元雄氏が愛用した1900年製スタインウェイのピアノの音色を楽しむコンサートを開催しました。石井コンラード絵里子さんの演奏で、ドビュッシーの「月の光」など8曲が披露されました。

また、茶室では、地元の茶道家・神津紀子さんを席主に迎えてお茶会を開催しました。華やかな雰囲気の中、おいしいお茶とお菓子を楽しみました。

11月10日 角川庭園 すぎなみ詩歌館まつり

角川庭園でのイベントで毎回好評のお茶会、俳句の魅力や楽しみ方を解説した講演会「初めての俳句」、杉並江戸落語研究会による「角川寄席」を行いました。

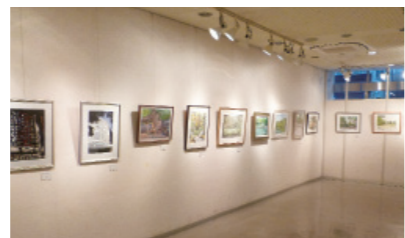


斬中の荻灯亭飯太さん

特に、初めて行った「角川寄席」は、とても好評で、終始笑いがあふれていました。

11月9日～17日 阿佐谷地域区民センター 展示「杉並の残したい風景展」

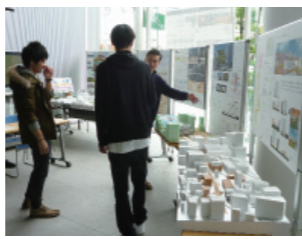
「NPO法人東京を描く市民の会」による「杉並の残したい風景」と題した作品約30点を、阿佐谷地域区民センター内のふらっどリーで展示しました。今年は絵画だけでなく、切り絵で風景を切り取ったものも出品され、杉並の風景をそれぞれ違った目線からとらえた力作が並びました。



ふらっどリーの展示

11月11日～15日 あんさんぶる荻窪 「荻窪の魅力をデザインする」 展示・発表

工学院大学建築学部の学生5グループによる、荻窪の魅力や特徴を活かしたまちづくりの提案の、模型とパネルを展示しました。また、13日には発表会を開催し、参加者との意見交換を行いました。



展示の様子

荻外荘に関連する主な出来事の略表（敬称略）

- 1927（昭和2）年 入澤達吉が荻外荘を創建
- 1937（昭和12）年 近衛文麿が取得・改修
- 第一次近衛内閣発足
- 1940（昭和15）年 第二次近衛内閣発足
- 1941（昭和16）年 第三次近衛内閣発足
- 1945（昭和20）年 太平洋戦争終戦
- 近衛文麿、荻外荘で服毒自殺
- 1960（昭和35）年 玄関・客間部分が天理教に移築
- 2012（平成24）年 杉並区が購入決定

杉並区による荻外荘の取得

平成24年、近衛家がここを手放し、大規模な開発が行われるという噂がたちました。ここを大切に思う地域の人々により荻外荘保存のための要望書が杉並区へ提出され、かねてよりこの場所の重要性を感じていた区は、荻外荘を含む敷地を譲り受けることに決めました。そして、荻外荘を活かした公園を整備するため、そして荻外荘の整備に合わせた大田黒公園や角川庭園といった周辺にある多くの景観資源も活かしたまちづくりを進めるために、荻外荘周辺まちづくり懇談会を設置しました。



空からみた荻外荘【平成24年5月24日撮影】



（上から）
入澤氏所有時の玄関【昭和2年～12年】
入澤氏所有時の荻外荘と庭【昭和2年～12年】
居間から庭を臨む【昭和35年以降】



（右と上）現在の荻外荘
（下）庭から臨む荻外荘【昭和35年以降】



激動の時代を見つめた
昭和の建築

荻外荘

Tekigai-sou

荻外荘とは

荻窪駅南口から10分ほど歩き、大田黒公園の正門前の道をさらに5分ほど南へ進んでいくと、石造りの門柱に木製扉の重厚な門が見えます。この門の奥にひっそりとたたずんでいる建物、これが荻外荘です。



正門

ここはかつて、近衛文麿氏の邸宅だったところで、建築家・伊東忠太氏が設計し、彼の木造邸宅建築で唯一現存するものだといわれる、大変貴重なものです。そして、戦前から終戦後まで近衛氏の私邸として政治の舞台の中心となり、新聞に何度も「荻外荘」の文字が掲載され、荻窪の地名が一躍世に知られるようになるきっかけとなった場所でもあります。



天理教東京教務支庁（豊島区）の荻外荘移築部分

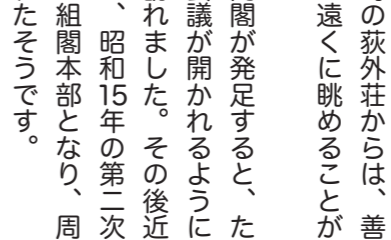
半分程度の大きさとなりました。しかし、今も豊かなみどりと重厚な雰囲気、歴史的・文化的な雰囲気を出しており、地域の重要な景観施設となっています。

荻外荘のあゆみ

「荻外荘」は昭和2年、荻窪に住んでいた医学博士・入澤達吉氏が、伊東忠太氏に設計を依頼して造った建物で、当初は「楓荻凹處」と呼ばれていました。

その後、ここを大変気に入った近衛文麿氏が、昭和12年に入澤氏より自宅として譲り受け、当時の元老・西園寺公望氏により「荻外荘」と名付けられました。

南斜面の高台に位置する当時の荻外荘からは、善福寺川を一望に収め、富士山も遠くに眺めることができました。



荻外荘の南観（西園寺氏書）

荻外荘周辺まちづくり懇談会の提案

平成25年5月から平成26年1月の間に開かれた計6回の懇談会の中で、学識経験者、区民委員からさまざまな意見が出され、これをもとに「荻外荘周辺まちづくり懇談会のまとめ」を作成しました。今後は、このまとめを参考に、新たに専門家や地域の方々からの意見を聞きながら荻外荘の活用と周辺の関連まちづくりについて検討をしていく予定です。

※報告書は区公式ホームページ、まちづくり推進課（区役所西棟3階）にて閲覧できます。



荻外荘（荻窪2-43）案内図

※現在は敷地内には入れません。

- 荻窪駅南口から徒歩15分
- 荻窪駅南口より関東バス【荻51】川南、シャレール荻窪行きに乗車。シャレール荻窪北から徒歩7分。

Topics

「すぎなみ景観ある区マップ」 新作ができました！

毎年好評の景観ある区マップの新作ができました。第4弾となる今回は「西荻窪・上井草編」です。公共施設だけでなく、みどり、神社仏閣など、色々なところをまとめてみました。昨年度発行の荻窪北・下井草編とあわせてまち歩きしてみたいですか？ まちづくり推進課（区役所西棟3階）ほか、区内図書館、駅前事務所等で配布しています。



n

e

杉並景観録

w

s

第11回杉並「まち」デザイン賞が決まりました

杉並「まち」デザイン賞は、自然と歴史に調和し、杉並らしい魅力的なまちなみづくりに貢献する建築物等を表彰するもので、開始は平成元年。第11回を迎えた今回は55件の応募があり、選考委員による選考を経て6件が表彰されました。

つきあたりのオアシス

袋小路がロータリー状になっており、みどり溢れる植込みが開かれた庭のようになっている。前所有者が馬車がえしとして作ったものなごりとのこと。



沓掛のいえ

道路に面したみどりが柔らかくまちなみに繋がり、夜は大きな窓が行燈のように通りを照らす。



花の絶えない庭

1年中花の絶えない開放的な庭で、樹木も美しく手入れされている。



南荻窪(旧神明町)の家

昭和8年に建てられた洋館で、門柱やみどりも含め、趣ある外観がきれいに保たれている。



オオイタビの塀

オオイタビで緑化された塀が2軒並んできれいに手入れされており、美しい景観になっている。



救世軍恵みの家

優しい色合いの高さを抑えた建物と植栽された広い歩道が、通りの空間を広く感じさせる。

第11回まちデザイン賞のリーフレットを配布しています。区民事務所・分室、駅前事務所、図書館、地域区民センター、まちづくり推進課（区役所西棟3階）、区公式ホームページにてご覧ください。

景観シンポジウム・第11回杉並「まち」デザイン賞表彰式を開催しました

11月17日 荻窪地域区民センター

表彰式では、副区長から表彰状と記念品が手渡され、受賞者の方の感想と選考委員による講評を発表したのち閉会しました。

引き続き、「歴史・文化を感じさせるまち『荻窪』の景観のこれから」をテーマに景観シンポジウムが開かれました。山田幸正氏（首都大学東京教授）による基調講演「歴史あるまちなみづくり」では、日本のまちなみ保存の歴史のほか、他自治体の事例を交えたまちなみ保存の手法などについてお話がありました。バラバラにある文化財や景観要素を点で保存するのではなく、それぞれを「そのまち『らしさ』」を生かしたストーリーでつなぎ、面的にまちなみを保存すること、まちなみづくりの主役は地域住民であることについて、映像を交えながら話されていました。

続いてパネルディスカッションでは、コーディネーターに高見澤邦郎氏（首都大学東京名誉教授）、出演者に山田幸正氏、角川庭園の管理運営を受託しているNPO法人すぎなみ学びの楽園、地域の町会長をお迎えし、荻窪のまちなみづくりについて意見交換をしました。話題の中心となったのは、荻窪の新しい見どころ

である荻外荘で、荻外荘の建築的価値についての解説のほか、NPOなど民間の力を活用した周辺のまちづくりの手法を検討する必要性、荻外荘の持続可能な活用のためには区民の力が重要であること、地域の方々が荻外荘に期待するところなど

について意見が出されました。質疑応答では来場者から、荻外荘を歴史認識を議論する場にしてほしい、荻外荘以外の歴史的に重要な建物等の保存にも力を注いでほしい、地域の散策マップの作成や案内板の設置をしてほしい等の意見が出されました。

※基調講演、パネルディスカッションの詳細は、区公式ホームページにてご覧いただけます。



パネルディスカッションの様子

景観
MEMO

杉並区内全域 家の塗り替え^{*}には届出が必要です。

景観法・杉並区景観条例にもとづき、杉並区全域が景観計画区域に指定されており、塗り替えを含む建物の外観変更を伴う行為には、事前届出が義務付けられています。 ※既存と同色の塗り替えも含まれます。

対象建物≫≫一般地域では、高さ10m以上または延べ面積1,000㎡以上の規模のもの
景観形成重点地区では、規模に関わらず全部

詳しくは、まちづくり推進課（03-3312-2111）まで電話でお問い合わせされるか、インターネットで「杉並区 景観」でご検索ください。

